



国史跡・重要文化財

鴻池新田

会所

News Letter

特集②

第十七回 鴻池ジャズストリート

特集①

再オープニングイベント

再開の刻

未来へつなぐ歴史の扉

歴史コラム

『大和川付け替えと鴻池新田 其の一』

イベントレポート

鴻池通信

ワッハ上方共催

『東大阪と上方演芸』展

イベントカレンダー



イベントのご案内



今後開催予定のイベントを一挙にご紹介！
詳しくは下記二次元コードより



おとのふしぎ

令和8年4月12日(日)

300円/人 小学生以上対象

日本のコスプレの起源

令和8年4月26日(日)

300円/人 小学生以上対象

同時開催

コスプレフェスタ

2000円/人

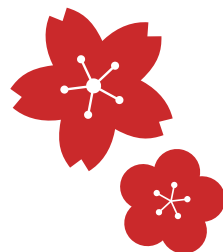
乙女文楽

令和8年5月10日(日)

2800円/人



詳細はこちらから



目次 CONTENTS

04 特集① 再オープニングイベント

再開の刻

～未来につなぐ歴史の扉～

06 特集② 第十七回 鴻池ジャズストリート

08 歴史コラム

大和川付け替えと鴻池新田 其の一

10 イベントレポート

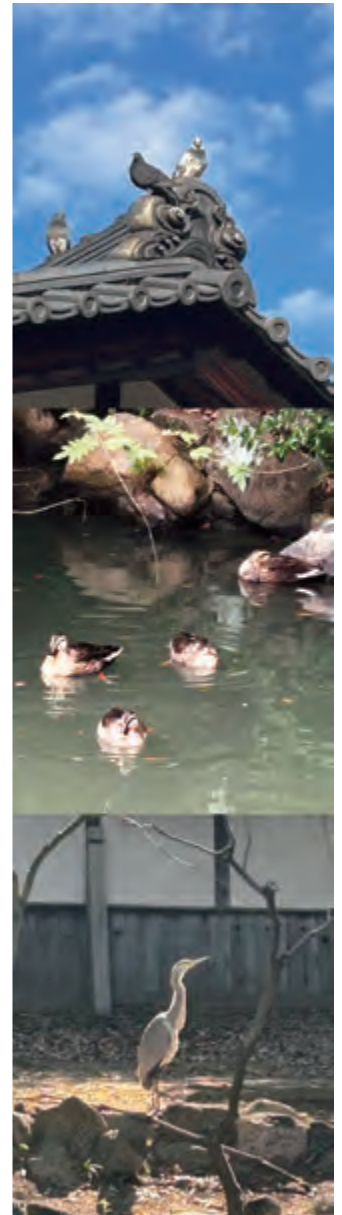
ガイドツアー / 古文書 / 和綴じ / 餅つき
河内木綿 / むかしの道具展

12 鴻池通信

消防訓練 / 社会見学 / フォトウェディング / 貸室

14 ワッハ上方共催『東大阪と上方演芸』展 in 鴻池新田会所

16 イベントカレンダー



撮影：鴻池新田会所



再オープニングイベント

鴻池新田会所 再開の刻

未来へつなぐ歴史の扉



↑イベント当日の表長屋門前



・初めに

令和四年九月より行われていた保存修理工事が終了し、再オープンを記念したオープニングイベントが令和七年十月四日、五日の二日間で開催されました。

あいにくの雨模様となった開催日でしたが、それにもかかわらずたくさんのお客様にご来館していただくことが出来ました。

・イベント初日

初日は大阪府立城東・東大阪みらい工科高等学校吹奏楽部の皆様による演奏から始まりました。二曲目の『風になりたい』はイベントの王道曲として聴きなじみのある曲です。秋雨の少し寂しい雰囲気さわやかなものに変えてくれたとても気持ちの良い演奏でした。

演奏が終わり、来賓の皆様のご挨拶やテップカットがあり、会場が一気に華やぎました。

以降はジャズ講談やデキシラードジャズのプログラムが用意されており、椅子席は満席、立ち見や座布団席も多くのお客様で埋められており、撮影のため現場にいた我々スタッフも驚きと喜びでいっぱいでした。

また、セレモニー終了と同時にワークショップやマルシェなども開始し、地元に着着した様々な食べ物や雑貨等が販売されました。お惣菜やおにぎり等は午後には売り切れになっており、とても盛況な初日を終えることが出来ました。



イベント当日の様子



↑SAXAS—サクアス—



↑加納文化伝統保存会の獅子舞の様子



↑マルシェの様子



↑川田郷土芸能保存会の獅子舞の様子

・イベント二日目

イベント二日目は、伝統芸能の獅子舞から始まりました。披露されたのは家内安全と無病息災を願う演舞です。

解説付きで初心者の人やお子様にも見ていただきやすい演出になっており、迫力のある舞にお客様は魅入られているようでした。

また、両日コーナー展示として獅子舞に因んだ展示も開催されており、より詳しく獅子舞を知ることが出来るようになっていました。その後は、サククスとピアノの実力派ユニット『SAXAS』の演奏や、ともさかダンススタジオのヒップホップダンスが披露されました。

・両日開催イベント：最後に

両日ともに飲食、物販、体験イベントや会所クイズラリー、特別ガイドツアー、ミニまちあるきが開催されました。

スタッフも様々な物を購入させて頂いていただきましたが、中でも五條堂の鴻池花火は羽二重餅で生クリームやたくさんのフルーツを包んだ他では味わえない一品となっています。初めて食べたのですが、中の具材もぎっしり入っているのでも満足感がありました。こちらの店舗を含め、たくさん出店していただきましたがどれも盛況だったようです。

たくさんの協力のもと大成功で幕を閉じた今イベント。これをスタートとして、鴻池新田会所の発展に邁進する所存です。



第十七回 鴻池ジャズストリート



↑大阪芸大クインテット



↑畑ひろしトリオ+Vo

・初めに
令和七年十月二十六日、十七回目となる鴻池ジャズストリートが開催されました。

本イベントは鴻池新田会所が再オープンする以前も、当会所をメイン会場として開催していた。再オープンを機に実行委員会の方よりお声掛け頂き、開催の運びとなりました。当日はジャズだけではなく講演や落語も開催されました。

綿密な打ち合わせや音響確認の甲斐もあり音の響きもよく、ライブハウスやドームなどとは一味違った音響の良さがありました。

また、今回のイベントも雨天の決行になってしまったのですが、雨水の音や会場の木材の香りとともに演奏を楽しんでいただけののではないのでしょうか？

三年ぶりのメイン会場となった当会所には実にたくさんのお客様にご来館いただきました。

・ジャズストリート

再オープンのイベントでも活躍していただいた大阪府立城東・東大阪みらい工科高等学校吹奏楽部の皆様にトップバッターを務めていただき、開幕となった今回のイベント。合計七組の演奏者による豪華な演奏は多岐にわたり、様々な音色が会場となった本屋・土間に響きました。二番目の大阪芸大クインテットは大学生らしい力のあふれる演奏で、観客席を魅了しておりました。





↑ 林家花丸氏(落語)



↑ 総合受付



↑ 玉田玉秀齋氏(講談)

我マスタツフは撮影や巡回もあり本屋内で演奏を拝聴していたのですが、どの演奏もそれぞれに魅力が詰まって、思わず聞き入ってしまった。

普段ならもう少し距離のあるステージ上でしか拝見することが出来ないチエロやトランペット等の楽器を間近に観察することができました。照明の反射できらきらと輝く楽器たちは視覚の面でもとても楽しい風景でした。

インストウルメンタルのバンドやトリオなどは楽器の音色が際立っており、ヴォーカルのいるバンドは楽器と歌声が混じり合い、他では味わえないような体験となりました。

このように地域の方々々と協力し地元の魅力を伝えるイベントを数多く予定しております。

●落語、講談

米蔵で同時開催されていた、講談と落語も満席となり、当日飛び入り参加で立ち見のお客様もどるほどの大盛況となりました。

蔵の雰囲気と高座に座る演者の皆様の姿が相まって、文化的な雰囲気をもとった素敵な会場となりました。

玉田玉秀齋様の講談も林家花丸様の落語もとても興味深く、観客の皆様も聞き入るシーンあり、笑うシーンありで大いに盛り上がりました。

ジャズと日本の伝統的な芸能が一気に楽しめるのはこの鴻池ジャズストリートならではの醍醐味ではないでしょうか？





歴史コラム

大和川付け替えと鴻池新田 其の一



大和川築留(上流から下流を撮影)大和川付け替え地点
築留で西に流路が変更され湾曲している様子がわかります



大和川石川合流地点
手前の大和川(画像左が上流)に
石川が流入しています

大和川付け替えと鴻池新田 其の一

現在、大和川の流路は、奈良県から大阪府に入り、柏原市築留付近で石川と合流し、藤井寺市・松原市・堺市などを経て大阪湾に流れています。この流れは、宝永元年(一七〇四)の大和川付け替えによってできた流路でそれまでは石川と合流して北または北西へと幾筋かに分かれて流れていました。大和川付け替え後は、こうした旧大和川流域の河川や池が凡そ四〇か所の新田に開発され、その一つが「鴻池新田」でした。このように鴻池新田の成り立ちを考えるにあたり大和川付け替えは、新田開発のキツカケとなった出来事ともいえます。そして、鴻池新田を語るうえで外すことのできない事象の一つといえます。そこで本コラムでは、大和川付け替えに関する内容を数回にわたって紹介していきます。第一回目の今回は、大和川付け替えについての概要を紹介したいと思います。

大和川の旧流域では付け替え推進や治水運動が、新流路に検討された地域では付け替え反対運動がそれぞれ行われました。鴻池新田会所(以下会所)が所在する東大阪地域は旧流域であり付け替え運動の推進地域で、運動の主要人物の一人である「中甚兵衛」も会所の少し東側に位置する今米村(現東大阪市今米)の庄屋でした。

付け替え運動がいつから始まったのかは同時代の資料が現在確認されておらず詳しいことは分かっていません。しかし、付け替えから約九十年後の寛政八年(一七九六)の記録で、付け替え反対地域である城連寺村(現松原市天美北付近)の庄屋家に残された『新大和川堀割由来書上帳』には、「下河内村々願始より元禄十六未年迄凡四拾五ヶ年ニ成申由」とあります。また、下河内の村々(付け替え推進地域の村々)が嘆願を始めたのが、元禄十六年(一七〇三)の凡そ四十五年前ということが記されており、これは、最初の付け替え検分(現地調査)が行われた万治三年(一六六〇)頃になります。

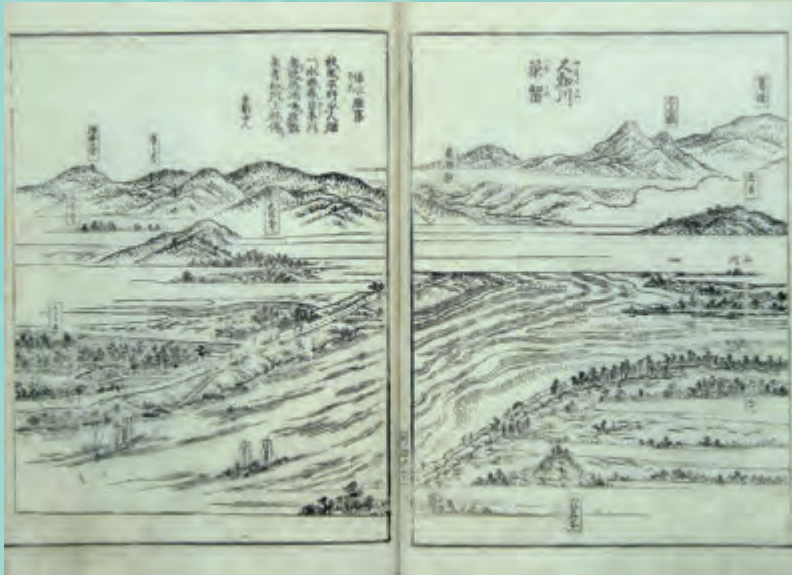




大和川治水記念公園(柏原市)の大和川付替二百五十年記念碑



大和川治水記念公園(柏原市)の中甚兵衛像



大和川築留
河内地域(大阪府の東部分)の史跡名勝・特産品などを紹介している享和元年(1803)刊行の『河内名所図会(秋里籬島著、丹羽桃溪画)』巻之四に描かれている「大和川築留」の図



その後も寛文五年(一六六五)、寛文十一年(一六七二)、延宝四年(一六七六)、天和三年(一六八三)などに検分が行われました。

一方、反対運動ではその理由として新川によって土地がなくなり生活できないことや新川付近の河川は南から北へ流れるものが多く、新川で遮られると北側は水不足に南側は水が溜まりやすくなって洪水になりやすい土地になること、街道や里道も通行が遮断されて不便になることなどがあげられました。

こうした付け替え運動・検分・反対運動など一連の動きがありますが、幕府は旧大和川流域の改修工事などを行い、貞享四年(一六八七)には付け替え不要を決定しました。しかし、いつまでもなくならなかった洪水や旧流域の新田開発による年貢の増収など、さまざまな理由から最終的に、元禄十六年十月二十八日、幕府はそれまでの付け替え不要の方針を転換し、急遽付け替えを決定しました。

大和川付け替え工事は、播磨国姫路藩主本多中務大輔忠国を助役に任命し、大名手伝い普請として三年計画で行う予定で宝永元年二月二十七日から着工しましたが、三月二十一日に藩主の急死により姫路藩は引き上げ、その後、三月三十日には上流部分を幕府が、翌四月一日には下流部分の手伝い大名に和泉国岸和田藩岡部氏・摂津国三田藩九鬼氏・播磨国明石藩松平氏が任命され、六月二十八日には付帯工事や姫路藩の不足工事などを行う手伝い大名として大和高取藩植村氏と丹波国柏原藩織田氏が追加で任命されて工事が進められました。

宝永元年二月二十七日から十月十三日までのおよそ八か月間の工期で、工事に従事した人足の延べ人数は約二八〇万人と考えられています。大和川と石川の合流地点である柏原の築留から堺まで、川幅約一八〇メートル、長さ約一四、三キロメートルの工事でした。大和川の付け替えは江戸時代の河内地域における最も大きな出来事の一つといえるでしょう。



鴻池新田会所 イベントレポート

2025年度
秋冬

鴻池新田会所で行われたイベントの一部をお届けします。

ガイドツアー

第三土曜日開催

毎月第三土曜日に開催しているガイドツアーは、昨年十月の再オープン以降に鴻池新田会所における新たなイベントとして始まりました。

既に六回のガイドツアーを行い、アンケートからも「とてもわかりやすく、自分の住むエリアの自慢だなと思った」「前に見学したときは分からなかったことも、たくさん知れたので大変良かったです」などと参加した方々が楽しまれている様子がうかがえます。

また、定期的に行うガイドツアーのほかに、団体のガイドツアーもしており、これまで東大阪市内の専門学校や大阪府の高齢者大学、歴史探訪のグループ等、様々な団体のガイドツアーを行いました。

こうした参加者は、東大阪市はもちろん、大阪市や大東市など近隣市からの参加者が多いほか、京都府や兵庫県、奈良などの遠方からの参加も見られます。これからも会所の魅力を発信できるようなガイドツアーを心掛けていきますので、皆様のご参加をお待ちしております。



ガイドツアーの様子

古文書入門教室

令和七年

十一月二十二日・十二月六日、十三日

令和八年

二月十四日・三月七日、十四日

昨年の十一月から十二月にかけての秋季と今年の二月から三月にかけての冬季の二度にわたって、それぞれ全三回の古文書入門教室を開催しました。

古文書に親しんでいただくために実物の古文書(講師個人蔵)を見るだけでなく、実際に触れていただきました。

講座は入門編ということで辞書や参考書の紹介、変体仮名、古文書独特の読み方などの準備講座をした後、古文書の解説を行います。テキストには鴻池新田の開発に関わりの深い大和川付け替えについての古文書を使用しました。

秋季は今米村(東大阪市今米)の庄屋中甚兵衛の子孫中丸兵衛氏が柏原市に寄贈された付け替えの嘆願文を、冬季は藤井寺市船橋村庄屋家の子孫で松永白洲記念館館主松永明氏所蔵の付け替えの反対訴状を読み進めました。

参加した方々は、くずし字に苦勞しながらも地域に関わる資料を解説するべくとても熱心に受講されていました。



古文書の実物



講座の様子

むかしの道具展

「人々をあたためた道具たち」

令和八年

一月十七日～三月八日

少し寒さが増してきた年明け、一月七日から三月八日まで、乾蔵にて「むかしの道具展」を開催しました。

人々をあたためた道具というテーマで開催された今年度のむかしの道具展は、火鉢、炬燵、湯たんば、行火などが多数展示されておりました。中でも火鉢は様々な種類が用意され、普段使いのものから豪華な装飾が施されたものまでずらりと並んで、圧巻されます。道具展の開催に伴い近隣の小学校が社会見学に来られたり、昔を懐かしんで、当時のお話を聞かせてくださるお客様がいらっしやったり。スタッフ側も大変有意義な展示期間を過ごすことが出来ました。

こちらの展示は再オープン後初となる企画展示でしたので事業スタッフも力が入り、展示説明用のイラストを描いたりチラシの題名を字写してみたりと様々な創意工夫での展示に挑みました。学芸員とも連携を取り、完成した展示風景やチラシなどを見たときは達成感に包まれたものです。



展示の様子と
むかしの道具の
実物





詳しいイベント情報や
過去イベント風景はこちらから→



HP



Instagram



X



和綴じ手帳をつくろう

令和七年十二月十四日

日ごとにぬくもりを感じる十二月十四日『和綴じ手帳をつくろう』のワークショップが開催されました。

参加者は子どもから大人まで十五名。まず、表紙にする友禅紙を十数種類から選びます。みなさん悩みながら自分の一番お気に入りの和紙を探し、次に中のページに使う無地の和紙を折って重ねます。

普段なかなか目にすることのない和綴じは、日本で古くから親しまれてきた製本方法のひとつです。千枚通しで穴を開ける工程では、力の入れ方や穴を開ける位置に苦戦する姿も見られました。それに続いて、糸で縫う作業では順序を確かめながらみなさん集中して手を動かしていました。

完成した和綴じ本を手に「大切すぎて使えない」「日記帳にする」など、みなさんの嬉しそうな表情が印象的でした。歴史ある空間の中、手仕事の奥深さと楽しさに触れる貴重な時間となりました。



完成品



当日の様子

餅つき大会

令和八年二月一日

厳しい寒さの続いていた二月一日、新町自治会のおもちつき大会を実施しました。寒い中、朝から自治会の方たちが集まって準備をしており、スタッフの主導のもと再オープン後初めてカマドに火が入りました。

自治会の老若男女問わず集まって協力する姿や、小さな子が一生懸命お餅を丸める姿が見られました。親御さんが後ろで支えながら杵でおもちをつく小さな子の姿は懸命で、とても微笑ましいものです。薪の燃える香りや、火の色、もち米の蒸されるいい香りは近年あまり見かけない貴重な景色として、会所を彩っておりました。近年では珍しい薪を使用するカマドや蒸し器を使用しているイベントに参加された方々にとって貴重な経験となったのではないのでしょうか？

普段は静かで寒さのある本屋・土間もこの日は人と火のおかげでじっと立っていても寒さを感じないほど温まっておりました。

鴻池新田会所ではこのように地域に根差し、貢献できるようなイベントや行事を随時行っていきたいと考えております。



当日の様子



河内木綿体験会

令和八年二月十五日

二月十五日、地域の伝統産業である『河内木綿』をテーマにした体験イベントが開催されました。河内木綿の素朴で丈夫な風合いは、今なお多くの人々を魅了しています。本イベントは、そうした地域の貴重な文化を実際に「見て・触れて・体験する」ことを目的として企画しました。

当日は三つの体験プログラムを実施しました。一つ目は、機械機を使った織り体験です。参加者の皆さまには、機械機に実際に触れていただき、布ができあがる仕組みを学んでいただきました。

二つ目は、卓上織機を使ったオリジナルコースター作りです。色とりどりの糸の中から好みの色を選び、世界に一つだけのコースターを制作しました。

三つ目は、糸車を使って綿から糸を紡ぐ体験です。ふわふわの綿が細い一本の糸へと変わっていく工程は、ものづくりの原点ともいえる体験です。

今後も地域の伝統文化を未来へとつなぐ取り組みとして、子どもから大人まで楽しみながら学べる機会を提供していきたいと考えております。



コースター作りの様子



糸紡ぎに挑戦



鴻池通信

消防訓練

令和八年一月二十日

一月二十日、「文化財防火デー」にあわせて消防訓練を実施しました。本訓練は、再オープンしてから初めて行った本格的な消防訓練であり、東大阪市消防局中消防署のご協力のもと、関係者が連携して取り組みました。

当日は、敷地北側で火災が発生し、発生現場近くに位置する重要文化財「本屋」へ延焼の危険があるという想定で訓練を行いました。歴史的価値を有する建造物を火災から守ることを最大の目的とし、通報から初期消火、救助、文化財の搬出まで、一連の対応を実践的に確認しました。

まず、施設管理者による館内放送で火災発生を周知し、来館者および職員へ速やかな避難を呼びかけます。あわせて119番通報を実施し、通報内容や状況説明の手順を確認しました。初期消火では、職員が消火器を使用し、火元への迅速な対応を訓練しました。火災発生直後の初動対応が被害を最小限に抑えるうえで極めて重要であることを、再認識する機会となりました。

その後、到着した消防隊による要救助者の救出訓練が行われました。また、文化財の搬出訓練も実施し、万が一の際にどのような手順で貴重な資料を守るのかを具体的に確認しました。訓練の最後には、一斉放水を行い、延焼防止に向けた連携体制を検証しました。

文化財は、地域の歴史と記憶を未来へつなぐ大切な財産です。今後も関係機関と連携しながら、継続的な訓練と火災予防に努め安全・安心な施設運営を行ってまいります。



↑当日の様子↓



社会見学

令和八年一月から

小学校三年生が三学期に行う昔の暮らしや道具についての学習に合わせて、鴻池新田会所では乾蔵で「むかしの道具展―人々をあたためた道具たち―」を開催しました。

会期中には、大蓮小学校・成和小学校・岩田西小学校・布施小学校（以上東大阪市）・茨田小学校（大阪市鶴見区）の五校が社会見学に訪れました。

学芸員による鴻池新田会所の建物の説明をはじめとし、土間や「むかしの道具展」で展示している道具の説明を聞くほか、米踏み場での唐臼体験・石臼をつかって大豆を粉にするひき臼体験などを行いました。見学に来た児童は、展示の解説文を書き写したり、気になる道具の絵を描いたりと普段見ることのない道具に興味津々でした。

また、石切東小学校と楠根小学校へは出前授業を行い、解説シートを使って道具の説明と石臼体験を行いました。

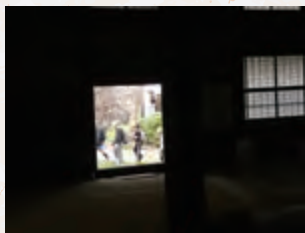


Photo Wedding report

東大阪市
結婚支援事業

日本庭園
フォトウェディング
in 鴻池新田会所



令和八年三月一日、フォトウェディング撮影会(市主催事業)が行われました。晴天に恵まれ、凛とした空気と木の香りに包まれた会所。江戸時代から受け継がれてきた空間が、この日は15組の新郎新婦をやさしく迎えました。

やわらかな日差しが庭園に降り注ぐ中、庭園に並ぶお二人の姿はまるで一枚の絵のようです。見つめ合いふと笑みがこぼれる瞬間には、こちらまで嬉しくなり一同自然と笑顔になります。カメラマンの「最高！いいですね！」という声に、緊張していた顔もぱっと輝き、本当に美しく凛々しいお二人のお姿。どの新郎新婦にも笑顔が溢れ、幸せの空気に満ちあふれています。

「式は挙げないけれど、今日が私たちの大切な一日です」という言葉が深く胸に残りました。長い歴史を刻んできた会所が、新たな物語の始まりを包み込む——その光景に、仕事を忘れるほど感動した一日でした。これからたくさんの新郎新婦の門出を、会所で祝福できますように……みなさんお幸せに！

趣のある歴史的建造物で

特別なひとときを

鴻池新田会所

貸室

重要文化財

交流会、教室、芸術表現など様々な催しや
写真・動画撮影やフォトブライダルなど
現代の会所として幅広くご利用いただけます

会所内
自由に
撮影OK

会所
全体貸し
可能

1時間
から
利用可能

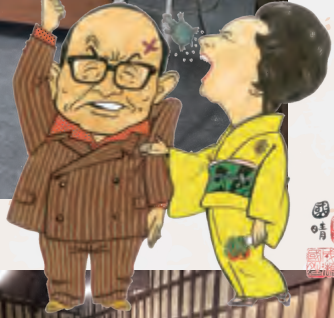
貸室について、お気軽にご相談ください
お部屋、料金などの詳細はこちらの
二次元コードからご覧ください ▶



大阪府立上方演芸資料館 ワツハ上方共催

東大阪と上方演芸展

in 鴻池新田会所



↑ 展示期間の様子。じっくりと観覧するお客様

本展は、大阪府立上方演芸資料館（ワツハ上方）と鴻池新田会所との共催で行われた展示で、ワツハ上方が収蔵する東大阪市出身の演芸人・人生幸朗氏などの貴重な資料を会内所内の米蔵を展示会場として出張展示したものです。
「東大阪市ゆかりの演芸人（人生幸朗）関係」・「東大阪市ゆかりの演芸人（人生幸朗以外）関係」・「鴻池の犬」関係」・「東大阪市の『寄席』関係」の四つの項目に分けて展示しました。

メインの展示として人生幸朗氏の関係では、舞台衣装や眼鏡、直筆メモ、サイン入りうちわ、第六回上方お笑い大賞の大賞記念品レリーフ、なんば花月の舞台袖で使用されたためくり（寄席などで使用される演者や演題を書いた紙）などのほか、数多くの貴重な資料を展示しました。

人生幸朗氏以外の展示では、未知やすえ・やすよ両氏の場合は花月劇場で使用されたためくりや、六代目笑福亭松鶴氏・三代目桂米朝氏・二代目桂枝雀氏による「鴻池の犬」が収録されたカセットテープやレコード、地元東大阪に関わる、岩田寄席・ジンジャモール寄席・ゆとりーと寄席にまつわる看板やプログラムなどを、それぞれ展示しました。
展示のほかに会場では、一九八〇年一月二十七日に放送された朝日放送（ABCテレビ）の「枝雀寄席（演目・鴻池の犬）」の上映も合わせて行いました。

会期は二週間と短い期間でしたが多くの方に見学していただきました。特に関連イベントの開催日には会場が窮屈に感じるほどの見学者で、懐かしく見学されている方や東大阪市の寄席をはじめて知られた方などそれぞれの想いで展示資料に見入られている様子が伺えました。

展示
二月二十二日（日）から
三月七日（土）まで





←笑福亭松五氏による
「鴻池の犬」の演目



門井旭蓮氏による
「耳なし芳一」の演奏→

特別イベント
二月二十三日(月・祝)

二月二十三日(月・祝)、本屋にて、大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)との共催イベントを開催いたしました。当日は晴天にも恵まれ、多くのお客様にご来場いただき、大変盛況のうちに幕を閉じることができました。ご来場くださいました皆さま、誠にありがとうございました。

本イベントは、令和七年十月より再オープンした鴻池新田会所をさらに盛り上げるべく企画された特別催事です。再オープン以降、当会所ではさまざまな文化芸術事業を展開しておりますが、今回は大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)との連携により、これまでとはひと味違った切り口で、新たな魅力をお届けする機会となりました。

当日は十二時三十分の開場。開場前から多くのお客様が列を作り、期待の高さがうかがえました。会場となった本屋は、世代を問わず幅広い来場者でにぎわい、和やかな雰囲気になりました。参加費は無料とし、より多くの方に気軽に足を運んでいただけるよう配慮いたしました。

十三時からは門井旭蓮様による筑前琵琶弾き語りのステージがスタート。温かみのある歌声と心に響くメロディーがホールいっぱい広がり、観客の皆さまはじつくりと耳を傾けていらっしやいました。楽曲の合間には筑前琵琶についての解説も交えられ、会場全体が一体感に包まれました。琵琶演奏の力によって、当会所の空間がより身近に、より親しみやすく感じられたひとときでした。

十四時からは笑福亭松五様による上方落語の公演が行われました。ワッハ上方ならではの本格的な話芸に、会場は大いに沸きました。巧みな語り口と豊かな表現力により、登場人物の情景が目には浮かぶように描き出され、笑いと拍手が絶えない時間となりました。初めて落語に触れるというお客様からも「とても分かりやすく、楽しかった」「また聴いてみたい」といった声をいただき、伝統芸能の魅力を改めて実感する機会となりました。

今回の共催イベントは、琵琶と落語という異なるジャンルを一度に楽しめる構成とし、多彩な文化体験を提供することを目指しました。これまでの鴻池新田会所のイメージとは異なる角度から施設を知っていただき、本イベントを通じて新たな一面を発見していただけたのではないかと感じております。

再オープン後の鴻池新田会所は、地域の皆さまにとってより開かれた文化拠点となることを目標に、さまざまな取り組みを進めております。今回の大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)との連携は、その象徴的な第一歩のひとつです。専門性の高いパートナーと協力することで、より質の高い文化芸術プログラムをお届けできることを改めて実感いたしました。



鴻池新田会所 イベントスケジュール 4・5月

詳しくはこちら



4/12

おとのふしぎ

近畿大学名誉教授 木村隆良氏と一緒にいろんな音を作って聞いて、体感して、理科が大好きになる体験科学実験教室です！

実際のイベント内容をちょっぴりご紹介！

- ・ダンシングスネークを作ろう
ダンシングスネークって何だろう？木村教授と一緒に作って音の動きを体感しよう
- ・様々な楽器を作ってみよう
ストローで簡単に楽器ができてちゃう！？音色の違いを確かめよう



4/26

日本のコスプレの起源

コスプレの起源は江戸時代？！

コスプレの文化と歴史に迫る特別講演！

講演の後はちよんまげペーパークラフトを作って撮影体験も

同時開催 コスプレフェスタ

由緒ある鴻池新田会所の美しい風景を活かしたコスプレフェスタ
再オープン後初となるこのイベント、ぜひお越しください



5/10

乙女文楽

吉田光華氏、ゼッキー氏出演の乙女文楽。

乙女文楽とは女性一人で人形を操る伝統芸能です。

演目は「安倍晴明と母狐の物語(朗読と人形)」「さくらさくら(人形舞)」の豪華二本立てとなります。

伝統ある鴻池新田会所で日本の伝統芸能に触れてみませんか？

鴻池新田会所

■お問合せ

住 所 : 大阪府東大阪市鴻池元町 2-30
 TEL/FAX : 06-6745-6409
 開館時間 : 9:30 ~ 17:00
 休館日 : 月曜日・祝日の翌平日
 年末年始 (12月29日~1月3日)
 U R L : <https://www.konoike-kaisho.jp>
 指定管理者 : 株式会社アスウェル

■交通アクセス

・JR学研都市線「鴻池新田駅」下車、南東へ約350m(正門)
 ※専用駐車場がありませんので、公共交通機関又は周辺の有料駐車場をご利用ください。



公式HP
二次元コード

